

嬉野

◆県産業医協30周年で講演

佐賀市

県産業医学協会
(江口寿理事長)

の設立30周年記念講演会が8日、佐賀市のはがくれ荘であり、企業の健康管理担当者など約60人が参加した。一写真江口理事長が開会のあいさつをした後、佐賀労働局の木下正人・労働基準部長が県内の労働者の健康をめぐる状況について説明。「定期検診で県内労働者の50%超に何らかの問題が見つかる」と発表した。



また、同協会の後藤英之保健指導室長と國部恵子同室主任、ライフスタイル医科学研究所の庄野菜穂子所長の3人が、4月から始まる特定保健指導の実際の運用などについ

て解説した。

◆酒蔵巡り参加者を募集

県内

試飲や見学を楽しみながら県内の酒蔵を回る「第2回佐賀酒蔵巡りマラニック」が3月8、9の両日に開かれる。参加者を募集している。

マラニックはマラソンとピクニックを兼ねた造語で、佐賀大の佐藤三郎准教授が中心となり、昨年からはじめた。コースは

初日が唐津市から伊万里市までの約64キロで、鳴滝酒造や古伊万里酒造などを訪ねる。2日目は嬉野市から鹿島市までの26キロを歩き、幸姫酒造などを回る。

参加費は5000円(宿泊費などは別に必要)。申し込みは11日までに佐藤さん、ファクス0952(32)1556。

東西南北

あなたのまちの
トピックス

蔵元回り試飲楽しんで

2日間で計90キロを走りながら、途中で酒蔵に立ち寄って試飲を楽しむ、いっぽう変わった「マラソン大会」が3月8、9の両日、県西部地域で開かれる。佐賀大関係者による地域

おこしの一環。歴史的な建物の残る蔵元もあり、田園風景も楽しめるとあって、遠くは大阪や東京からも参加者がいるという。
【上田泰嗣】

「酒蔵巡りマラソン大会」



「佐賀酒蔵巡りマラソン大会」は、佐賀大産学官連携推進機構で副機構長を務める准教授の佐藤三郎さん。

佐賀酒蔵巡りマラソン大会で、途中で立ち寄った酒蔵で試飲する参加者。昨年の大会から

県西部地域で
来月8、9日
2日
90キロ
参加者募集

コースは、唐津市のJR唐津駅をスタートし、同市の鳴滝酒造を皮切りに計10カ所程度の蔵元を回って試飲や酒蔵見学をする。コース上は原則としてジョギングやウォーキングで、伊万里湾大橋や祐徳稲荷神社など名所にも寄れるよう設定されている。宿泊地の嬉野温泉では懇親会もある。ゴールは鹿島市のJR鹿島駅。

佐藤さんは「競争ではないので年配者が多く、和気あいあいと楽しく行くのがだいご味。途中だけ加わる人もいる」と参加を呼び掛けている。

参加費5000円(保険など)。ほかに懇親会費5000円、宿泊費8000円(朝食付き)などが必要。

問い合わせは佐藤さん090・5282・6546。

日本経済新聞

2008年(平成20年)3月6日(木曜日)



◎佐賀県の酒を打ちながら、伊万里湾蔵十一カ所を巡る一風変わったマラソン大会が八日、九日の両日開かれる。マラソンとヒクニックを兼ねた「佐賀酒蔵巡りマラソン大会」で、今大会で二回目となる。

◎事務局の佐藤三郎さんには「この大会はタイムを競う競技ではなく、あくまでウルトラマラソンを愛する人たちの語らひの場」と強調している。うまい酒に舌鼓を打ちながら、伊万里湾の大橋や祐徳稲荷神社などの観光スポットを楽しめるコース設定になっている。

◎コースはJR唐津駅からJR鹿島駅までの計九十キロ。うまい酒に舌鼓を打ちながら、伊万里湾の大橋や祐徳稲荷神社などの観光スポットを楽しめるコース設定になっている。

ローカルワイド

立ち寄った酒蔵で試飲を楽しむ「佐賀酒蔵巡りマラニック大会」参加者＝伊万里市の松浦一酒造



酒とシヨギング2日かけ90キロ

唐津市→鹿島市

11の酒蔵巡り

県内外から30人参加

県内

県内各地の酒蔵で試飲などを楽しみながら、二日間、約90キロを走る「佐賀酒蔵巡りマラニック大会」が八日、スタートした。県内外の約30人が、

シヨギングやウォーキングなど、思い思いのペースで酒造りの木おけなどが残るレトロな空間に足を運んだ。

同日朝にJR唐津駅をスタートした参加者は、唐津市や有田町など五カ所の酒蔵に立ち寄りながら、嬉野市までの約六十四キロを走破。途中、伊万里市山代町の松浦一酒造(田尻泰浩社長)で梅酒などを試飲した北九州市の会社員原田耕次さん(三男)は「お酒とシヨギングを同時に楽しめて、せいたくな気分」と喜ぶ。「マラニック」は、

マラソンとウォーキングを合わせた言葉で、佐賀最大の佐藤三郎准教授がと鹿島市の酒蔵六カ所を中心となり、昨年からは巡る予定。(武田)

ローカルワイド

「発酵の町」売り出せ!!

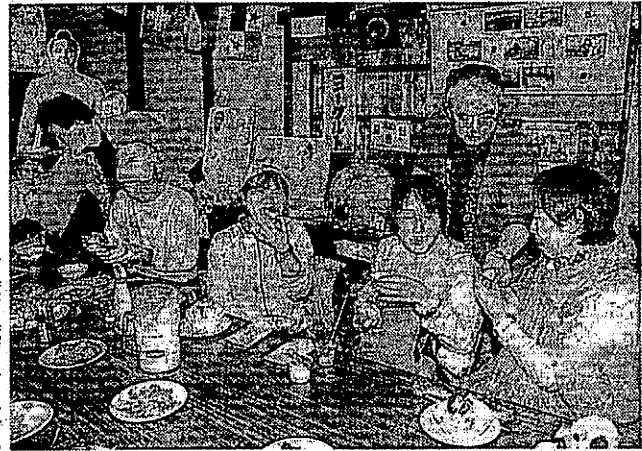
鹿島市 酒蔵の蔵開きを合わせ、鹿島発酵研究会(福山暢生会長)による「発酵まつり」が9日、同市の矢野酒造で開かれた。大勢の客が訪れ、日本酒やみそなど、「発酵の町」ならではの商品を味わった。

酒蔵で試食楽しむ

醸造業を生かした町おこしを進めようと計画し、今回で二回目。公開された酒蔵は、バスツアーで訪れた客や、県内の酒蔵をシヨキングで回る「酒蔵巡りマラニック大会」に参加したランナーらでにぎわった。

日本民謡協会「佐賀平成会」が酒造りにちなんだ民謡などを披露。出来たての日本酒の試飲のほか、押しずしや竹炭を練り込んだパン、キャベツのレモン漬けといった発酵食品の試食が人気を集め、「ローズシヤムの味がくせになりそう」「おかわりしたい」などの声が上がっていた。

また、中央商店街連合会(中山龍生会長)は、「一店一品運動」を実施。各店舗自慢の商品をPRした。(藤生)



試食コーナーでみそ汁や漬け物、チーズなどを味わう来場者ら＝鹿島市高津原の矢野酒造